

英国ブリストル大学における 臨床研究支援体制

伊藤 達也

はじめに

私は日本では大学における医薬品や医療機器の臨床開発に携わってきました。日本の臨床開発は煩雑な手続きなどが多く、時間と労力がかかるため迅速かつ効率的なアカデミア主導の臨床開発の進め方について欧米ではどのような支援方法があるのか？と以前より疑問に思っていました。私は2014年1月より英国ブリストル大学に留学する機会を幸運にも得て、英国におけるアカデミアによる臨床開発、薬事規制や技術移転等、日本との違いを研究テーマとして従事しています。現在、日本との違いを感じつつ海外での見聞を広げられたらと思ひ研究生生活を送っています。本稿では、留学先における研究環境・研究生生活について報告します。

ブリストルの紹介

ブリストルは英国イングランド西部の主要都市の1つで、日本のガイドブックなどでは小さな港町と紹介されています。人口は約45万人でイングランドでも6番目とかなり大きな街です(英国の全人口は約6,000万人で日本の半数なので、大きな街といっても日本の都市より規模は小さいです)。ブリストルの気候は冬

でも0℃を下回ることはほとんどなく、また夏も最高気温は25℃前後ととても過ごしやすいです。また時々、英国独特の天気(1日で目まぐるしく変わる天気)があり、1日で色々な季節が味わえることもあります。ブリストルは丘の多い街としても知られており、しかもブリストル大学は街の真ん中の丘の上にあるため、学内の移動が大変ですが足腰が鍛えられます。ブリストルには日本人が少なく、私たち家族は当初不安で一杯でしたが、ブリストルの人々はとても気さくで親切で、色々なことで助けていただいています。今ではたくさんの人々との交流を通じ、ブリストルという街がとても気に入っています。それからブリストルは観光名所も多く、特にクラシックやジャズなどの音楽の盛んな街でもあり、とても魅力的な街でもあります。

University of Bristol での研究環境

ブリストル大学は1909年に設置された大学で、イギリスの研究型大規模大学群ラッセル・グループの加盟校の1つで、学部は全部で6学部あり、特に工学系や医学系の研究は盛んです。私は大学本部組織の1つである Research and Enterprise Development (RED; 産学連携本部) に在籍し、Research Governance (研究倫理・臨床試験支援) と Research Commercialisation (技術移転) の2つのチームに配属し、大学における研究支援体制の在り方などを広い視点から研究活動を進めています。このREDでは日本人は私1人のみで、周りの方々の助けもあって素晴らしい環境の中で研究して

Ito, Tatsuya

Research and Enterprise Development, University of Bristol,
UK

E-mail : tatsuya.ito@bristol.ac.uk / taito@kuhp.kyoto-u.ac.jp